

第 5 章 「指数関数と対数関数」

5. 有理数・実数指数の定義

hm2-5-5

(pdf ファイル)

分数を指数にもつ累乗の定義

定義

$a > 0$ で、 p, q が整数、 $p > 0$ のとき、

$$a^{\frac{q}{p}} = \sqrt[p]{a^q} \left(= \left(\sqrt[p]{a} \right)^q \right) \quad \text{とくに、} \quad a^{\frac{1}{p}} = \sqrt[p]{a}$$

【定義の背景】

指数法則 **2** $(a^m)^n = a^{mn}$ が、 $m = \frac{q}{p}$ 、 $n = p$

のときにも成り立つものとし、 $x = a^{\frac{q}{p}}$ と表されるはずの正の数を見ると、

$$x^p = \left(a^{\frac{q}{p}} \right)^p =$$

より、

$$x =$$



$$(1) \quad 25^{\frac{1}{2}} =$$

$$(2) \quad 8^{\frac{2}{3}} =$$

$$(3) \quad 8^{-\frac{2}{3}} =$$

$$(4) \quad 16^{\frac{3}{4}} =$$

$$(5) \quad 32^{\frac{2}{5}} =$$

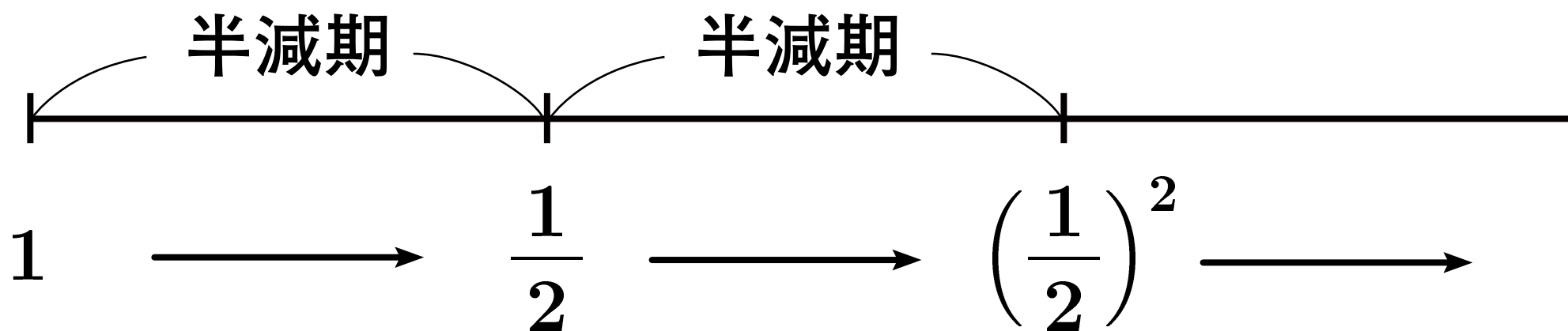
$$(6) \quad \left(\frac{1}{64}\right)^{\frac{3}{4}} =$$

$$(7) \quad (128)^{-\frac{2}{5}} =$$

「指数の拡張の必要性」について

たとえば、半減期の $\frac{1}{2}$ の時間が経過したとき、放射性物質は、どれ位に減っているだろうか。

あるいは、放射性物質の量が $\frac{1}{3}$ となるのは、半減期何回分の時間が経過したときだろうか。



指数の列と累乗の列

n	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...
a^n					a	a^2	a^3	a^4	...

n	...	-2	$-\frac{3}{2}$	-1	$-\frac{1}{2}$	0	$\frac{1}{2}$	1	$\frac{3}{2}$	2	...
a^n		$\frac{1}{a^2}$		$\frac{1}{a}$		1		a		a^2	

n	...	-1	$-\frac{3}{4}$	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{1}{4}$	0	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	1	...
a^n		$\frac{1}{a}$		$\frac{1}{\sqrt{a}}$		1		\sqrt{a}		a	

指数が有理数のときの指数法則

$a > 0, b > 0$ で, r, s が有理数のとき,
次の指数法則が成り立つ.

1 $a^r a^s = a^{r+s}$

2 $(a^r)^s = a^{rs}$

3 $(ab)^r = a^r b^r$

有理数を指数にもつ数の計算例

$$(1) \quad 2^{\frac{1}{2}} \div 2^{\frac{1}{6}} \times 4^{\frac{1}{3}} =$$

$$(2) \quad \sqrt[3]{2} \div \sqrt[6]{2} \times \sqrt[6]{32} =$$

$$(3) \quad \sqrt{12^3} \times \sqrt{24} \div 81^{\frac{3}{4}} \times \sqrt[6]{8^3}$$

=

実数を指数にもつ累乗の定義

たとえば, $2^\pi = 2^{3.1415926\dots}$ は,

$$2^{3.1}, 2^{3.14}, 2^{3.141}, 2^{3.1415}, 2^{3.14159}, 2^{3.141592}, \dots$$

のように π に近づく有理数を指数とする 2 の累乗の列

$$8.57418\dots, 8.815240\dots, 8.821353\dots,$$

$$8.82441\dots, 8.82496\dots, 8.824973\dots, \dots$$

の値が, 限りなくある一定の値に近づいていくので, この値をもって 2^π と定める.

このようにして, 任意の実数 x に対して a^x が定義される. 指数を実数にまで拡張したときも指数法則が同じように成り立つ.